



取るのは高給！ 取らぬは責任！

福島原発事故についての東電元会長ら東電トップの刑事責任を問う裁判が三月十二日結審した。あれだけの被害を周りに及ぼしながら東電トップ側は、最終弁論で「自分らには罪はない」と主張した。

何がおきても

それでは、どういふときに責任を取るのか聞きたい。

を受け容れなかった自分らが悪かった」と東電トップは云うべきだった。

東電内部では

二〇〇八年、東電地震対策センターでは国の地震予測を基に津波は最大15.7mと予測。

しかし、「防潮堤を建設し、それが出来るまで原発を止める」事態を避けたかったのだろう、東電トップは東電自身が計算の基礎とした政府の地震予測の信頼性を云々。東電自身の計算結果を受け容れず対策を先送り。

現実には津波は15mに達し(2011.4.10 NHK)悲惨な事故に至った。「自社の専門家の計算

一般の工場であれば通常事故があっても被害は敷地周辺に限られ、被害は一過性だ。

しかし、原発の事故では放射能が広い範囲にばら撒かれる。その影響は末代まで続く。被害は計り知れない。だから、原発の稼働には特別に安全に注意を払う必要がある。しかし、現実には予め分かっていた危険にも対処していない。

「何があっても責任は取らない。取るのは高給だけ」と聞こえる。あなたはどよう思われますか？

半島の先では春の予感

神奈川県横須賀市津久井

二〇一九年二月



海抜一八二mの三浦富士は京急長沢から気軽に登ることが出来る。頂上に立つと富士山や大島が良く見える。休日にはアマチュア無線機を片手に、遠い所との通信を楽しむ人もいる。

南に下ると、三浦海岸から続く砂浜が見えた。夏には海水浴客で賑わうが、今はヨットの帆がいくつか。

この絵を描いたのは二月。落葉樹には葉が無い。しかし、三浦半島の先頭に近いこの地では冬なのに温かい。どことなく春が来つつあることが感じられる。

収穫の済んだキャベツ畑には大きな葉が散らばっていた。

山の麓には春野菜の温室。

畑の縁に植えられた絹さやには幾つもの花が咲き、既に実もなっていた。

